

シンポジウム 19 : がん在宅の未来～地域で支えるためにできること～

演題名	施設での療養、看取りを支える～ご本人・ご家族のおもい～
------------	-----------------------------

概要

人は最期の時を何処で迎えたいか。多くの方、またその家族が自宅での療養を希望されます。その半面、「家庭での介護力の問題」や「状態変化時の家族の対応力」など、様々な問題があり、自宅での療養ができないという現実があります。私の勤務する 心で介護坂の上 は住宅型有料老人ホーム・アヴィラージュ浜松医大前に併設する事業所です。在宅医療に積極的に取り組む坂の上ファミリークリニックが関わることにより、がん末期の方、医療依存度の高い方の入居受入れを積極的に行っています。2011年10月の開設から現在までに約70名の方々を最期まで看させて頂き、送り出すことができました。アットホームな雰囲気の中、ご本人・ご家族様の希望に沿うためには、どのような関わりを持てばよいのか、様々な職種の方々と連携を取りながら支援させて頂いています。そんな中で、数多くの課題も出てきました。来たる超高齢化社会に向け、事例を紹介しながら考えていきたいと思えます。